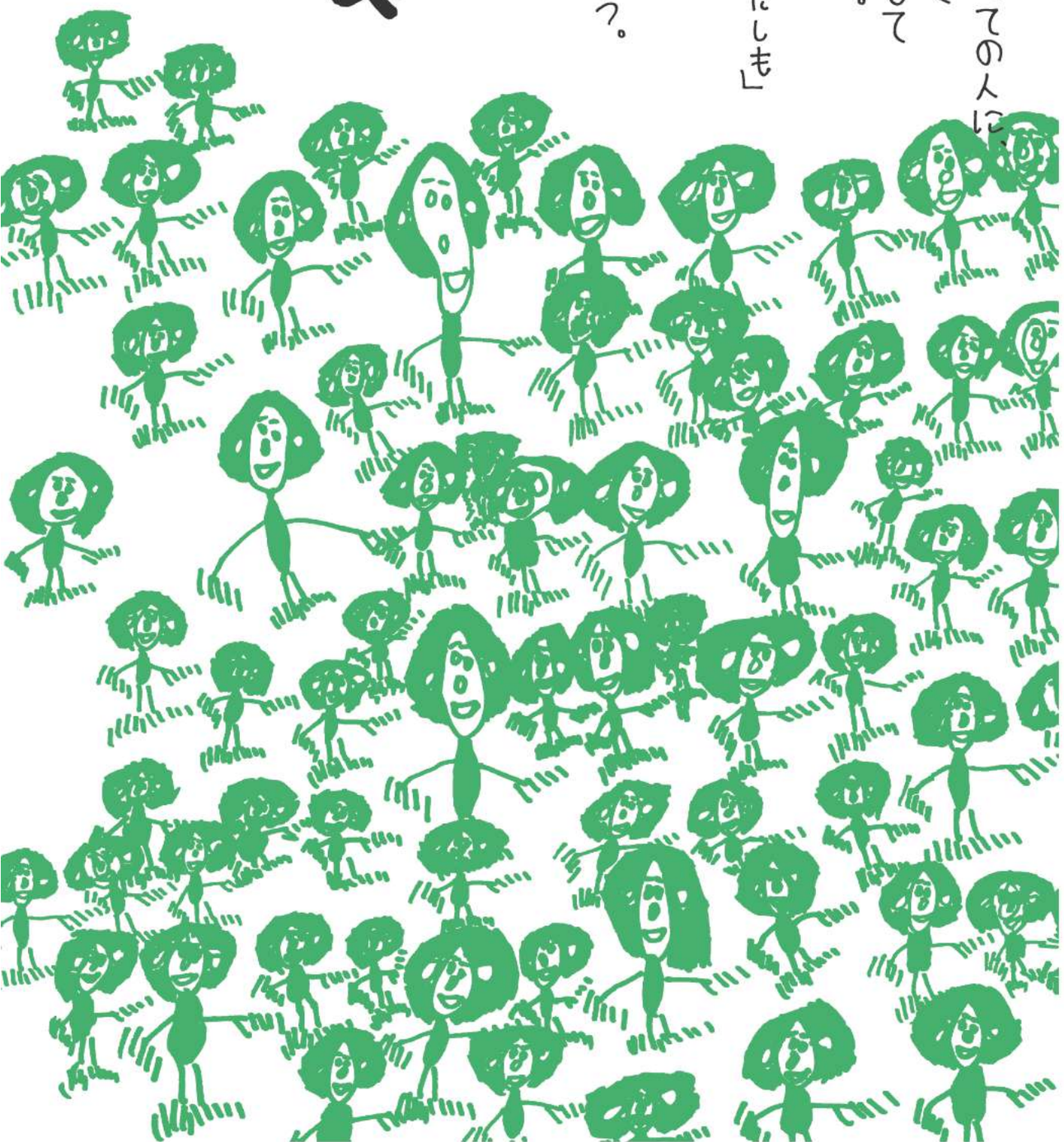
ALIVE屋久島福祉マガジン

わぁも

屋久島のすべての人に、
福祉のことを
「わがこと」として
考えてほしい。
知ってほしい。
「あなたも、わたしも」
一緒になって、
島の未来を
明るくしていこう。



alive!
YAKUSHIMA

ALIVE屋久島とは、屋久島島内の福祉関係者が法人の垣根を越え集まった任意団体です。2018年10月に島内の全福祉事業所から賛同いただき、チームが結成されました。
これまでに「屋久島福祉フェスタ」「認知症カフェ」等を開催。また、定期的に交流の場を持ちながら高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉を、チームとして包括的にサポートできる取り組みを模索しております。
ALIVE屋久島は堅苦しいものではなく、職業的良心やボランタリー性を軸として集まったチームです。全く違うカラーの事業所がつながり、ひとつのチームになることで面白い活動が可能になります。ロゴマークの１つ１つのフォントが違うのはその魅力を表現しています。
このチームが継続的に活動することで、島民の安心した暮らしを支え、地域共生社会を実現できると確信しています。

ALIVE屋久島 代表 義山正浩

ALIVE屋久島福祉マガジン「わぁも」創刊号　発行日：2020年3月20日　発行元：ALIVE屋久島事務局　印刷：サンニチ印刷　企画・取材：義山正浩（ALIVE屋久島 代表）
デザイン・企画・取材：高久照美（niid design）　撮影：yu-（yu- photographs）P07～18　テキスト：高田みかこ（一湊珈琲編集室）P17～21　イラスト：江夏耀一 P03～06
協力：「屋久の郷」利用者さん　表紙・MAPイラスト：村本こずえ　目次・扉イラスト：斎藤晋作　タイトル文字：山崎輝樹

Contents

01 詩　ただ生きる　谷川俊太郎

02 プロローグ　福祉をもっと身近に感じるには

03 ここにあるもの　エピソードからみる福祉の本当の姿とは

07 やくしま福祉マップ　色々な個性あふれる福祉事業所紹介

13 わたしの歩む道　福祉の現場で自分らしく働く人たち

15 ある肖像　島の写真家 yu- が撮影した「ある肖像」

17 地域と繋がる開かれた場所づくり　サロン湯の峯／カフェギャラリー百水

19 鼎談　島で看取るということ　地域と医療と福祉が繋がる看取り

22 ALIVE 屋久島通信　これまでの活動報告／人材募集について

「わ」とは屋久島の方言で「あなた」のこと。
そして「おい」は「自分」のこと。
ただ、島の北部と南部では逆となり、
南部では「わ」は「自分」の意味になります。
島の中でも集落ごとに方言があるとも言われる屋久島。
島の中で意味が逆になるなんて、面白いですね。
意味は逆でも「あなたも」「わたしも」一緒になって、
福祉のことを考えるきっかけになればと、
「わぁも」というタイトルになりました。

Ｉターンで島に来る創造性あふれる若者や、
進学・就職で島を離れＵターンで戻ってくる人。
島に惹かれやってくる島外や海外からの移住者たち。
そして、島の記憶と共に生きる高齢者まで。

島では多様な人々が暮らす中、
今、多くの福祉事業所が人材不足に悩まされています。
一般的にイメージされる福祉分野のマイナスイメージ。
しかしながら、「いのち」や「人」と向き合う福祉の現場は、
毎日が感動の連続であり、学ぶことも多く、やりがいがあります。

「島を明るく幸せにしていく」

そのためには福祉の充実がかかせません。
島に住む皆さんに「わがこと」として感じて欲しい。
さらにはこれからの福祉分野を支える若い世代の皆さんに、
福祉とは何かを考える未来に向けた種を蒔けたら。
この冊子を通して福祉の魅力や私たちの想いに触れてください。
そして「わがこと」として、一緒に考えていきませんか？

ただ生きる

谷川俊太郎

立てなくなってはじめて学ぶ
立つことの複雑さ
立つことの不思議
重力のむごさ優しさ

支えられてはじめて気づく
一歩の重み　一歩の喜び
支えてくれる手のぬくみ
独りではないと知る安らぎ

ただ立っていること
ふるさとの星の上に
ただ歩くこと　陽をあびて
ただ生きること　今日を

ひとつのいのちであること
人とともに　鳥やけものとともに
草木とともに　星々とともに
息深く　息長く

ただいのちであることの
そのありがたさに　へりくだる

Special Issue 特集

ここにあるもの

福祉の魅力ってなんだろう。難しく考えなくても、
ほら、あちこちに転がっている、キラキラとしたもの。
笑ったり、泣いたり、毎日おこるドラマの数々。
皆さんに知って欲しい福祉の現場にあるもの。
日々のエピソードから見えてくる、福祉の本当の姿とは？

私と過ごしてくれたあなたたちへ

私は八七歳のときに、娘の勧めで「ひまわりのお家」にやってきた。「こんなところに入れやがって！」と毎日思ったの。夜中に脱走してやろうとチャンスを伺ったものだわ。娘は私に会いにきてくれたけど、「こいつの顔なんか忘れたわよ。」なんて言ってやったわ。

でも私も日々の生活に楽しみを見つけて、大好きなバニラアイスを毎日二個も食べてたの。主治医の先生も大丈夫だって。私は私の好きなものを食べるわ。

それに花が大好きだから、夏はひまわり畑、秋はコスモス畑へ。そんな時は「この花に埋もれて死にたいわ。」と良く言ったものよ。私もここに来て十年、病気も入院もしたし、一緒に笑ったり泣いたりしてきたスタッフの手を借りないといけなくなったの。「入院は大嫌い！何もしなくていい！」と皆へ伝えたわ。私はもう長く生きたからもういの。最後のバニラアイスも美味しかったし。

皆には色々お世話になったわね。こんな《くそばばぁ》を最後まで見てくれて。ここで最期を迎えられて本当に良かったわ。ありがとう。

最後のご入浴

Aさんは三年前より「屋久島町社会福祉協議会（社協）」のヘルパーを利用していましたが、体調を崩して入院した際に癌が見つかり、余命が長くないと伝えられました。本人に「自宅で最期を迎えたい」との思いがあり、退院して在宅介護を継続することに。自宅の浴槽やデイサービスでは入浴ができなくなり、清拭にて清潔を保っていましたが、Aさんご本人とご家族から入浴したいとの希望が入りました。

そこで、社協が実施している訪問入浴事業の利用手続きを進めご自宅へ伺うと、布団の中にいるのに、Aさんは手足が冷えきっている状態でした。早速浴槽をセットして入浴して頂くと、少しの刺激でも痛みを感じておられたAさんが「温かかね。気持ち良かー。」と、とても喜んでおられました。その数日後、Aさんは自宅で静かに亡くなられました。

職員不足で頻繁に実施することが難しいサービスですが、通常の入浴が難しくなった方に少しでも喜んで頂けるように、屋久島町内で唯一実施しているこの事業を、できるだけ継続していきたいと思います。

大きな変化

「屋久の郷」は、利用者さんの作品の素晴らしさを伝えたいとカフェギャラリーへとリニューアルする為、一ヶ月間レストランを休業。それまでずっと厨房内で作業していた利用者さんも、その間はクラフトをすることに。その時に、十年間お皿洗いをしていた藤村誠さんが、初めて描いた作品の魅力的な配色、独特な構図に皆、驚愕!!

直ぐにご家族に連絡して著作権契約等の話をすると、「うちの誠が絵を描ける訳がない、描いてるのを見たこともないんですよ。」

「いえ、誠さん凄い才能です。」

「本当ですか？」

俄かに信じられないご様子でした。

その後、週に二回のペースで絵を描き続ける内に、更にクオリティは高まっていき、ついにはカフェギャラリー「百水」で、藤村誠展を開催するに至りました。開催前日、先ずはご家族に見てもらおうとご案内しました。息子さんの作品を目の当たりにした時のご家族の驚きように、私たちも感激しました。今後、東京での個展も予定されています。

誠さんは、とても無口ですが、自分の作品が多くの方に認められることで、表情がとても豊かになりました。

それは、私たちの喜びでもあります。

スエマツお爺さんのこと

スエマツさんは、一年半程前から「縄文の郷」で暮らしている。普段は大概、しかめっ面で、「ご飯はまだか！」しか言わない。ただ、その風貌はとても個性的で素敵なのです。

昨年秋のこと。お隣の「屋久の郷」で開催したイズミクニヒロさんのライブにスエマツさんも参加。見たことのない笑顔でノリノリ！屋久の郷メンバーと縄文の郷のお爺さんお婆さんが手を取り合って踊りまくるというカオス！

イズミさんの前衛的で自由気儘な音楽は、福祉の現場に奇跡を起こしました。

その後の、スエマツさんは喋り捲り!!その後も二人で昔話を三十分。原集落で黒糖を作っていたこと、ムロアジのこと等々延々とでした。

これまでのケアは何だったのか？

私たちは「幸せ」を提供する。それは、私たちにとっても幸せであり、やりがいになる。

誰もが幸せで満たされる瞬間を創造できるように、施設での暮らしに寂しさを感じないように、ご入居者に寄り添いたいと思うのです。

本音をぽつり

アットホームだからこそ、対人援助はより濃密なものになります。

もう長く「鶴と亀」で暮らしておられる男性入居者Bさんは、感情をストレートに表現される方です。特に女性職員には家族の如く大声で怒鳴るのです。

ある日も朝から大荒れ。しかし、私たちにとってBさんの言動は家族に限りなく近い存在と認めてくれていることとして受け止めます。決して否定することはありません。

しばらくするとBさんから、「さっきは、言い過ぎて悪かったね。夢見が悪かったんだよ。許してね。」許しますとも、いつまでも私たちを家族のように接してくださいね！と心の中でつぶやくのです。

あるご夫婦の姿から

「竜天園」での、あるご夫婦のお話。奥様は脳出血の後に胃瘻造設され、ご主人は奥様が入所されてから毎日欠かさず面会に見えています。それも一日二回、午前十時と午後四時に見え、面会だけではなく、奥様の体をマッサージし、口腔ケアを念入りに行い、体位変換も。その後もテレビの位置の調整や番組の選択、すべて奥様に声掛けしながら、発語も促されています。

いつもご主人は「言葉が出ればな～。」と残念がられていますが、奥様はこれまでに何度かご主人の「バイバイ。」に対し「バイバイ。」と返事をしました。頷きや目の動きなどを見ると、ご主人が言われている内容をほとんど理解されているようです。

延命については「よかったのか、悪かったのか今でも考えてしまう。」と言われますが、「生かしたからには、最後まで面倒見らんとな。」と、いつも笑顔で話されてるご主人。

「昔はいろいろと迷惑かけたしな…。」と話すご主人の献身的なケアで、奥様の今の状態が保てていると私たちは思っています。

私たちはただただ空気のように見守っており、良いご夫婦の姿と、介護の見本を見せて頂いている気持ちです。

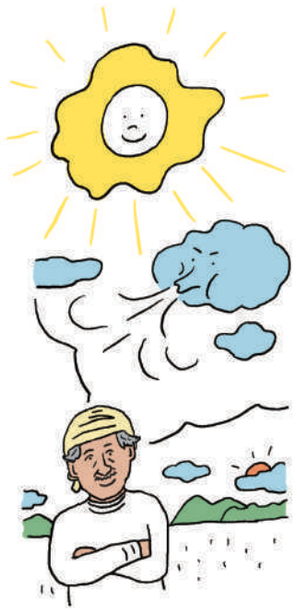
北風と太陽から学ぶこと

グループホーム「月見荘」には、様々な障害があり一人では暮らせない老若男女が集まる。支援のあり方は多様で、支援者としての資質が求められる。どん底の生活から「普通」を目指しての支援は、生活のリズムを整えることから始まる。と言っても思うようにはいかない。言葉だけの支援はどんなに無益なことか、それどころか反発として返ってくるのが関の山。「貴方の健康を考えているんだ！分かってくれよ～!!」戦いのゴングが鳴る。今までの生活がダメなのを当人たちは薄々分かっていて、その為ここに居る。だからといって「嫌なものは嫌だ！」。

そこでイソップ童話の「北風と太陽」。無理やり人の心を動かすことはできない。強要するより、優しく思いやりを持とう。「ヨシ！これだ！」と精一杯の思いやりと優しさでの支援開始。しかしその方法は大失敗に終わる。優しさにつけ込まれるのだ。元々が自身に限りなく優しくしてきた強者たちだから。

この「北風と太陽」、実は二番勝負していて、はじめの勝負は帽子を脱がせた北風が勝っているのだ。脱がせる物が帽子かコートの違いなので、相手によって対応は臨機応変に柔軟さが大事だということ。でも言うのは簡単。その臨機応変が難しい。

今は、「敵を知り己を知れば百戦殆からず」という孫子の教えを踏まえて…「利用者さんを知り己を知れば支援殆からず」。じっくりと利用者さんに寄り添い、その人となりを知ること、そしてこれが問題なのだが、己自身を知ること。偉そうに「支援者の資質が求められる」と書いているが、私自身、自分のことが分からない。寄り添い向き合い相手から発せられた現象と、自身の感情や心境を客観視できて初めて臨機応変という対応ができるのだろう。



「奥が深いな～。」でもこれって答えのない世界で、一生悩み続けるコトじゃないかな。だから、共に悩んでいこう、ずっと、ずーっと。

さて、ここで一句。

「寄り添いて教え説かれる己かな」

最後まで自宅で

訪問看護ステーション「雲雀」を開設して、もうすぐ丸四年となります。四年間で十四名の方を在宅でお看取りしました。

Cさんは喉の癌末期で喉に穴をあけ、チューブが入った状態でご自宅に戻り、元々は一人暮らしでしたが娘さんが同居され、介護が始まりました。段々とお互いを思いやる気持ちがぶつかり合い、父娘お互いにストレスが溜まっていきました。娘さんはパートの仕事に復帰し、日中はヘルパーさんと訪問看護が毎日訪問することに。

Cさんは声が出せないため、筆談にて気持ちを聞きます。「自分のミカン畑に行きたい。」というCさんの思いを叶えるため、娘さんと協力し、男性看護師が背負ってミカン畑の中を歩き回りました。ミカンの出来映えにとても満足されていました。

食事も水分も全く摂れなくなり暫くは毎日点滴をしていましたが、「もういい。」と点滴をやめ、全く飲み食いもせずに約一ヶ月後にご自宅で亡くなりました。

後日、ご自宅へ職員とお悔やみに伺うと、そこには男性看護師が撮ったお父様の写真が壁一杯に貼られていました。泣いたり笑ったりしてお父様のお話をしました。

在宅での看取りを通じて娘さんは親子の絆を再認識し、父親のぶれない生き方を知ることができました。

私たちも「一生懸命に生きる」ということをいつも患者さんに学ばせて頂いています。これからも「最後まで自宅」を叶えて行けるよう頑張っていきたいです。

ニーズに応える

私たち「ほほ笑み」では、年頭にご利用者一人一人から、今年叶えたいことを書いてもらいます。Dさんは「馴染みのスナックでカラオケ！」と書きました。Dさんは昔よく部下を連れてスナックに通われていたことが懐かしく、今は夜に出歩けない状況をもどかしく感じていたのです。

早速、私たちはスナックのママさんに連絡。「Dさんからのお話であれば、断る理由がないです。お昼にお店を開けましょう。」と快諾して頂きました。そして、ご利用者の方の誕生会を兼ね、カラオケパーティーをすることになりました。

Dさんは「やっぱりここは音響がいいなぁ。」と、懐かしさと久々のカラオケに大喜びされていました。

他にも、あじんこ釣りやツワむきなど、「ほほ笑み」で行われていることは、屋久島での暮らしそのものであり、それが地域密着型サービスの魅力だと思っています。

マンガ家になりたかったモッチー

「野の花」がオープンしたばかりの頃から現在まで約十三年、「野の花」と共に歩んできたモッチー（愛称）。毎月毎月手作りのカレンダーを作り、デイサービスの利用日を〇で囲う。そのカレンダーには季節の風景や好きな食べ物などの絵が描かれていて、彼女の絵を描くときの集中力は本当にスゴイ!!

私との出会いは、実はバイト仲間。偶然名前も同じで一緒に楽しく働いていた。とてもアクティブだったモッチーが五二歳の若さで突然倒れ、後遺症を持っての生活に一変。失語、半身の麻痺。当時は介護四であったが、その後の本人の頑張りと周りの方々のサポートもあり、なんと今は介護一まで復活。今は少しのサポートで自立した生活を送っている。

好きな絵を描き、お酒を飲み、ときには競馬を楽しんだりも。ご主人と寄り添っての日々の生活が、その温かい絵の中に感じられる。

「野の花」のマンガ家、モッチー。夢を諦めずに共に歩んでいこうね！

ALIVE屋久島
やくしま福祉マップ

島をまるく繋ぐ福祉の輪

屋久島の福祉をサポートするため、
島の福祉事業所が一緒になり
「ALIVE 屋久島」という、
ひとつのチームになりました。
繋がり、支え合う屋久島の福祉を、
みんなで作り上げていきます。

01

地域密着型特定施設入居者生活介護事業所
小規模多機能型居宅介護事業所
「ひまわりのお家」

02

屋久島町社会福祉協議会
「縄文の苑」

03

就労継続支援事業所
「屋久の郷」
愛心会グループ

04

特別養護老人ホーム
「縄文の郷」
愛心会グループ

05

グループホーム
「鶴と亀」

06

特別養護老人ホーム
「竜天園」

07

屋久島町基幹相談支援センター
「相談支援センターやくしま」

08

訪問看護ステーション
「雲雀（ひばり）」

09

ヘルパーステーション
「つわぶき」

10

児童発達支援事業所
「児童デイサービス縄文」

11

屋久島町社会福祉協議会
「こまどり館」

12

就労継続支援事業所
「じゃがいものおうち」

13

ミニ・デイサービス
「野の花」

14

ミニ・デイサービス
「ほほ笑み」

私たちはご利用者のみなさまが住み慣れた地域で
暮らしていけるようにお手伝いをいたします。

http://www.himawarino ouchi.com

01

地域密着型特定施設入居者生活介護事業所／
小規模多機能型居宅介護事業所

ひまわりのお家

屋久島町宮之浦 2384-10 tel.0997-42-2855

ひまわりのお家では地域密着型特定施設生活介護サービス（日常生活に常時介護が必要だったり、介護者がいなく在宅での介護が困難な方で住み慣れた地域で支援を受けたい方）と、小規模多機能型居宅介護（通い、宿泊、訪問を利用者さまの希望や状況に応じて臨機応変に対応）を同一施設で行っております。住み慣れた地域で、利用者さまやご家族の皆さま、そして職員全員が、いつも明るく優しい笑顔になれるように日々ケアを行っております。

「あなたの笑顔が宝物」を合言葉に
皆さんが楽しく過ごせるよう務めています。

http://yakushima shakyo.jp

02 11

社会福祉法人

屋久島町社会福祉協議会

02「縄文の苑」屋久島町宮之浦 2467-19　tel.0997-42-2711
10「こまどり館」屋久島町尾之間 459-1　tel.0997-47-3232

屋久島町社会福祉協議会は、『縄文の苑』『こまどり館』の２ヶ所を拠点に、通所介護、訪問介護、訪問入浴、居宅介護支援などの福祉サービスを実施しています。デイサービスでは、職員が付き添い、安心して入浴して頂き、昼食後は体操やレクリエーションで楽しく体を動かして頂きます。様々な事業を通じて、利用者の方々が自分でできることを継続できるよう手助けしながら、在宅で、地域で、自分らしく、笑顔あふれる毎日を過ごしていただけるよう務めています。

利用者さんもご家族も、地域の方も、
誰もが心地よく自由に過ごせる開かれた場所へ。

https://aishin kai.or.jp/yaku

03

就労継続支援事業所

屋久の郷（愛心会グループ）

屋久島町宮之浦 2459-1
tel.0997-42-0775

「屋久の郷」は宮之浦にある障がい者のための就労継続支援の施設です。近年では、アートを用いた作業療法を行なっています。併設するカフェギャラリー百水では毎日丁寧に心を込めて焼くパンや、ハンバーグ・パスタなどのカフェメニュー、そして「屋久の郷」の利用者さんによるアート作品の展示販売をしています。これらの作業の中で、利用者さんの一人一人の個性を発揮でき、その人らしい豊かな生活を営むことができるような支援を心がけています。

利用者さんと介護スタッフが共に支えながら、
一人一人を主役とした皆で支える福祉を。

https://aishin kai.or.jp/

04

特別養護老人ホーム／
ホームヘルプサービス／居宅介護支援

縄文の郷（愛心会グループ）

屋久島町宮之浦 2458-2 tel.0997-42-2820

主に65才以上の介護を必要とする方々にご利用頂いています。食事、入浴、排泄等の基本的な介護をベースに、レクリエーションやクラブ活動、月々のお誕生日会、遠足などの季節行事も積極的に行なっています。運動会や敬老会は毎回多くのご家族の方が参加される賑やかなイベントで、入居されている方々の大きな楽しみのひとつです。また可能な限り自宅で過ごしたい方や暮らし続けた地域で過ごしたい方のための訪問介護や居宅介護支援もしております。

家庭的で温かな雰囲気を大切に、利用者さんもスタッフも共に楽しく過せるよう努めてます。

05

グループホーム

鶴と亀

屋久島町小瀬田 849-18
tel.0997-43-5501

家族的な雰囲気の中に疑似家族をつくり、自立支援をしながら入居者さんのそれぞれの個性を引き出すケアプランを作成します。また日常生活の中での食事、入浴、排泄などの生活支援をしながら、認知症の進行を防ぎ、指定認知症対応型共同生活介護入居者の要介護状態の軽減、悪化の予防に必要な援助を行なっています。利用者さんやご家族の意向、主治医や職員の意見や気づきを反映し、利用者さんにより良い暮らしができる介護を心掛け、利用者さんもスタッフも楽しく過ごせる施設を目指しています。

ご利用さんとその家族，そして職員も、竜天園に関わる全ての人が笑顔になれるように。

06

特別養護老人ホーム

竜天園

屋久島町船行 1068-3
tel.0997-46-3114

竜天園では施設長をはじめ、介護職、看護職、裏方でサポートするスタッフまで、全ての職員がひとつになり、この仕事がご利用者さんの安心した暮らしに繋がると考え、自分たちの業務に誇りを持って取り組んでいます。施設では春はレクリエーション大会、夏は納涼祭、秋は敬老会、冬にはクリスマス会など、四季を通して家族会の皆さまと協力して一緒に楽しめる行事を企画しています。今日という日がご利用者とご家族の皆さまの明日に繋がるようスタッフ一同、全力でサポートしていきます。

障がいのある方が住み慣れた地域で安心して暮らせるようお手伝いします。

07 屋久島町基幹相談支援センター

相談支援センターやくしま

屋久島町安房 118　tel.0997-46-2277

「相談支援センターやくしま」では、福祉サービスをご利用になりたい方の相談に応じ、サービス等利用計画を作成するお手伝いをします。また、お困りのことがございましたらお話を聴かせていただき、必要に応じて各種関係機関と連携して、相談者中心に解決の糸口を見つけるお手伝いをします。お気軽に何でもご相談ください。

「安心」「信頼」「笑い」をモットーに実践しています。　https://yakushima hibari.com

08 訪問看護ステーション

雲 雀 （ひばり）

屋久島町安房 1796-14-107　tel.0997-46-4767

時間に縛られない働き方や患者様とゆっくり向き合うことのできる訪問看護というカタチ。病院や診療所、居宅ケアマネジャーとの連携がとりやすく、患者様にとってベストな支援・ケアを実行しています。経験の長いスタッフが多く在籍し、様々な分野での経験を持ちより、一人ひとりの患者様に必要な支援やケアを考えることができます。

個々の生活に合わせたきめ細かいサービスを行っています。　http://www.lifesupport o.com/

09 ヘルパーステーション

つ わ ぶ き

屋久島町安房 2407-214　tel.0997-46-2590

ご利用者さんのご自宅に定期的に訪問し、日常の介護や家事、生活に関する相談・助言などのお世話をさせて頂き、自立に向けての日常生活をお手伝いします。またただの介護サービスを提供するのみではなく、ご利用者さんにイキイキとした生活を送って頂けるようサポートし、リハビリを兼ねてお年寄りが活躍できる場を模索します。

子供が主人公の、毎日楽しく遊べる療育を。　http://d jyomon.sunnyday.jp/index.html

10 児童発達支援事業所

児童デイサービス縄文

屋久島町原 8　tel.0997-47-2274

地域に密着した療育支援活動を行なっています。生活習慣の自立をめざし、身体を動かして遊ぶ楽しさ、友達と遊ぶ楽しさを知らせるなど年齢や障害の発達に応じた援助を行いながら、子どもたちが意欲的で安定した生活が送れるようにし、また保護者の悩みを受け止め、相談し合う場を持ち、保護者に対する援助活動も大切にしていきます。

障がいを持つ人も持たない人も、地域の人々と、共に生き、共に創造し、共に育む場所を目指して。　http://www.minc.ne.jp/~npo jaga/

12 就労継続支援事業所
生活介護／グループホーム

じゃがいものおうち

屋久島町尾之間 136-6　tel.0997-47-3588

じゃがいものおうちは、障害をもつ人たちとその家族、そして周りで支える仲間たちの集まりです。この屋久島で心や体に障がいを持った人たちがどうしたら明るく健康に暮らせるのかを考え、悩みを話し、助け合っています。就労継続支援事業所「にじいろの樹」ではタンカンジュースや黒豚味噌などの製品を作る就労の場として、生活介護「みんなのおうち」やグループホーム「月見荘」では、共同生活の中で温かい家庭のような生活を目指しています。

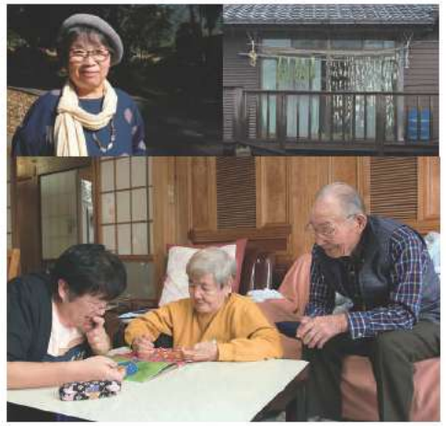
家で過ごすような温もりの中、たくさん笑って、心も体も元気になるよう一緒に過ごします。

13 民家改修 地域密着型通所介護

ミニ・デイ野の花

屋久島町平内 542-5
tel.0997-47-3118

利用者さんの希望に沿ったサービスの時間を提供してます。また、在宅生活が安心安全に送れるように、生活の中でのリハビリを行い、少しでも長くその人らしく、我が家で過ごして頂けるよう取り組んでいます。お年寄りが日々行ってきた生活（保存食づくりや畑仕事、行事食づくりなど）をひとつの作業として取り入れており、また外出や外食の機会も多く、人とのふれあいを大切にしています。民家をグループホームにしていますので、ほっとした温もりに包まれ、おしゃべりに花を咲かせ、楽しい時間を過ごすことができます。



生まれ育った場所で、安心して、ゆっくりと過ごすお手伝いをいたします。　http://yukurikan.web.fc2.com/index.html

14 ミニ・デイサービス

ほほ笑み

屋久島町栗生 1245-16
tel.0997-48-2099

西部地区の集落の「湯泊・栗生・中間」集落より１文字ずつとり、「ゆっくりかん（湯栗間）」として親しまれてます。廃校になった栗生中学校校舎を自ら改築して再利用。室内は杉材を使い、昼食では地産品を積極的に用いています。日常生活を一緒に行うことで自立生活の維持を支援し、幼児との交流も大切にしています。私たちは住み慣れた場所で家族とともに安心して暮らせること、また助け合いを通じて自ら将来の展望を切り開くことを願っています。

働き方のヒント

わたしの歩む道

取材に伺って、印象的だったのが、
働く人たちのキラキラとした笑顔でした。
施設の利用者さんのお話をされるときの、
皆さんのなんて柔らかで温かい笑顔。
島にやってきた人、島に戻ってきた人、海外から来た人。
ルールにしばられず自分らしく福祉の現場で働く人たち。
そこにはしなやかに働く「ヒント」があります。

ここがわたしの居場所かしら？って。心から寄り添って、みんなの気持ちを大事にしたいの。

マハナちゃん
就労継続支援事業所「屋久の郷」スタッフ
職歴：5ヶ月

きっかけ
わたしには性同一性障害があって、だからか違和感なくスっと溶け込めた。「マハナちゃんは利用者さん？職員さん？」ってみんなに言われたり（笑）。「障がい」というものに親近感があって、働くというより応援されてるなって感じるの。温かで、ここがわたしの居場所かしらって思えるように。

この仕事のいいところ
毎日ドラマがあるの。日々のできごとで利用者さんの気持ちがわかる瞬間が何度もあって、心から寄り添うことができる。

大切にしていること
全員が楽しいのがいいと思っていたけど、それぞれに楽しいや元気が違うから、それぞれの気持ちや感性を大切に。否定はしない、調和を目指したいな。

言葉ができない分、一生懸命働くんだよ。わたしのほうが皆に元気をもらえるしわせなお仕事ね。

森岡カンディダ バンクアルさん
特別養護老人ホーム「竜天園」介護職員
介護職歴：13年

大変だったこと
最初はまったく言葉がわからず、悔しくて涙を流した。それでも日誌を日本語で書かないといけないから、頑張って毎日勉強して必死に覚えた。職場の優しい同僚たちが丁寧に教えてくれて、だんだんと話したり書いたりできるようになった。

この仕事のいいところ
仕事で辛かったことは何もない。利用者さんに「あんた、いつも一生懸命だなぁ。」「無理すんなぁ。」と温かい言葉をもらえてうれしい気持ちをもらえる。利用者さんが笑顔を見せてくれたり、元気な姿を見れるだけで、わたしはうれしい。

これからのこと
もっと同じ国の人や海外の人も働いてほしい。一緒に喜びを話せる人がいるといいなと思う。

訪問看護は時間をその家族の為だけに使えるのが魅力です。ゆっくりと自分らしく向き合えますよ。

徳永 加奈子さん
訪問看護ステーション「雲雀」看護師
看護職歴：26年

きっかけ
看護師として病院や老人ホームで働いて居たけれど、もっとゆっくり利用者の方と関わりたいと思い、訪問看護というスタイルを選びました。「ちょっと待ってください。」という言葉をほとんど使わなくてよくなりました！

大切にしていること
現在の利用者さんのほとんどがご高齢の方。苦しい時代を生き抜いてこられた人生の大先輩であるということ、お一人お一人にそれぞれの人生があり、今に至っていることを常に心に留めて仕事をしています。人の尊厳を大切にしています。

島だからできること
周囲の協力が得られやすい（その方の情報が入りやすい）ため、アプローチの選択肢が多いと思います。

仕事のポリシーは「ない！」のがポリシー。仕事は楽しくないと、面白くない!! 皆が楽しいければいい！

森山 裕樹さん
グループホーム「鶴と亀」 施設長
介護職歴：17年

きっかけ
島で育ったから、この島に戻ってくるとは考えていなかったけど、祖母が入院したのをきっかけにお世話がしたいと、21才の時に戻ってきて介護職についたら、なんとそのまま17年も。

大切にしていること
仕事は楽しくないと面白くないと思っている。自分も利用者さんもスタッフも楽しいってことが基本にないと！5年前から管理職になったけど堅苦しいのは嫌いなので、とにかく楽しくいようと思っている。誰に対しても、否定はほとんどしない。

これからのこと
これからのことを考えると、若い世代の人たちに来て欲しい。働き方改革や空家バンクなど、若者が島外から働きに来やすい環境を作ったらいいと思う。

笑顔で始まり、笑顔で一日を終える。「今日を生きる」ことを全力で支援し、笑顔にしたいです！

能勢 友美さん
ミニ・デイ「野の花」介護職員・相談員
介護職歴：20年

きっかけ
大好きな祖母の入院をきっかけに高齢者の方を支えたいなと思った。「病は気から」と言われるように、心から笑顔になってもらえる仕事がしたいと思ったから。

島だからできること
島の四季を感じながら、利用者さんと一緒に干し大根作りやツノ巻き作り、つわや筍、わらびなどの山菜採りへ。海や山に行きたいといえば、みんなでドライブに出かけ、花々をみたり、牛や猿や鹿に会いに行ったりと、利用者の方々と一緒になって、家族のように穏やかな時間を過ごせることが魅力です。

大切にしていること
不安を抱える利用者さんと、毎日会ったその日に顔と顔を合わせて「笑顔」を引き出していくこと。

ある肖像

サロン湯の峯／カフェギャラリー百水

地域とつながる開かれた場所づくり

地域の憩いの場として、また観光の方にも楽しんでもらえる場所として。ここでは、障がい者施設の利用者さんたちが、自然と地域に溶け込んで、生き生きと働いています。そんな温かで笑顔あふれるお店に足を運んでみませんか？

↑パンを買うと、利用者さんが描いた可愛い絵のついた紙袋に入れてもらえます！

↑人気のデミハンバーグとカルボナーラ。

利用者さんからの
声かけで今日も
ポジティブになれます！

森永和代さん

レストラン「陽だまり」時代から8年の勤務。

代口和江さん

介護の世界に20年。リフレッシュ期間を経て、昨年、愛心会に復帰。サービス管理責任者をしています。

利用者さんの持つに感性の豊かさに
いつも圧倒されながら、一人一人に合う
ケアプランを考えています。

↑光あふれる店内にアート作品が展示されています。ほとんどの作品が購入可。

↑もらえたら貴重な屋久島寅次郎の名刺。

↑最近は刺繍がみんなのブームです。

↑カフェのトイレにもアートが満載。

就労継続支援B型事業所「屋久の郷」が創業11年目を迎え、2018年7月にリニューアルオープンした「カフェギャラリー百水」。同じ建物内にアート工房とパン工房が備えられている。

毎朝、焼かれるパンは昼過ぎには品薄になるほど人気。パンだけを買いに訪れる地元のお客さんも多いが、店内ではパンにサラダとドリンクを＋300円でセットにできるのも魅了。カレーライスやパスタ、ハンバーグなどのカフェ定番メニューも並ぶ。施設利用者さんの心のこもった接客と、穏やかに流れる時間が過ごせる。

またアート工房で製作される絵や手ぬぐい、刺繍といった作品は、随時カフェで展示販売されており、絵をプリントしたTシャツやポストカードは商品化され、販売もしている。また、島のクラフトビール「Catch the Beer」とのコラボでラベルの絵を制作。島内外で広く親しまれている。

百水では「見つける（再発見）、つくる（制作・調理を自由に表現）、みせる（作品の展示販売）、つながる（地域とつながる）」をテーマに、アートと人との触れ合いを大切にした、笑顔あふれる場所づくりを目指している。

その時に不思議とピタっとくる言葉をくれる「しのぶのひとことみくじ」。ぜひ引いてみてくださいね。

↑利用者のコノムさんの昆虫の絵を元に刺繍した「コノム図鑑シリーズ」

他者のペースを尊重する術を日々学び中。
「こうあるべき」というこだわりを手放すと、
できることが増えました。

中村たかえさん

2019年夏からアート部門のスタッフに。島のクラフトマンたちと手を携えて、事業所の外へと広がりのある活動をしています。

「お客さんをもてなしたい」
利用者さんによる
心のこもった接客に、
笑いの絶えない職場です。

高野八一さん

「仕事だからじゃない、やりたくてやっている」百水の利用者さんの姿勢が大好きなカフェ担当。丁寧に淹れる珈琲が美味しいと評判。

みつける　つくる　みせる　つながる

「カフェギャラリー百水」

屋久島町宮之浦 2459-1

tel.0997-42-0775

営業時間 /11:00～15:00

定休日 / 土・日　yakunosato

利用者さんが描いた「百水」の文字。白い暖簾をくぐると、笑顔いっぱいの利用者さんがお出迎え。

↑赤ちゃん連れや集落の高齢者が団欒できる温かな場所となっている。

←自分たちで育てた麦を焙煎して麦茶にします。

以前、尾之間にあったお豆腐を復活させた大好評の「よかたん豆腐」。できたての木綿豆腐、寄せ豆腐を購入できるのは月2～3回だけ。豆乳の販売もあり。

その自家製豆乳を使った爽やかな豆乳ソフトクリームは温泉後にぴったりです。

←豆腐販売日は「よかたん豆腐」の看板が出てます。目印にどうぞー。

地域の方々の思い入れある場所なので、
地域の方々と共にできることを
増やしていきたい。

二宮志代里さん

島への移住を期に、この道20年。介護福祉士やケアマネージャーを経て、2019年夏から、こちらで働くように。

就労継続支援B型事業所「にじいろの樹」が、2019年5月に尾之間温泉の真向かいにオープンさせたカフェ。オリジナルの「タンカンジュース」はもちろん、サロン内で食べられる「豆乳ソフトクリーム」や尾之間の黒糖を使った「潮風キャラメル」も名物。

元々、尾之間区が管理する温泉の休憩所として使われていた建物で、区からの依頼でカフェ&販売スペースとしてリニューアルした。区の歴史を伝える古い写真なども展示されている。

1階は土間や広々とした畳の小上がり、2階にはリサイクル衣料が整然と並ぶ。カフェでは毎日「にじいろの樹」の利用者さん1名とスタッフ1名が店に立っている。利用者さんはカフェの配膳やリサイクル衣料の整理、麦茶の焙煎なども行なっている。

「にじいろの樹」の所属する「NPO法人じゃがいものおうち」では、島で心や体に障害を持った人たちがどうしたら明るく健康に暮らしていけるのかを考え、色々なことにチャレンジし、障害を持つ人も持たない人も、共に生き共に創造し、共に育む場として地域の人々と共に歩んでいきたいと考えている。

利用者、地域の方、観光客の方、
みんなそれぞれが
自然に触れ合う
場になったら、うれしい。

傘木風子さん

運営元の「じゃがいものおうち」の活動に関わって約10年。3年前から常勤スタッフとなり、サロンリーダーを任されています。

カフェと暮らしのお店

「サロン湯の峯」

屋久島町尾之間 1299-3

tel.0997-47-3317

営業時間 /10:00～15:30(L.O.15:00)

定休日 / 木・日

地域に住む職人さんが作ってくれた桶やソフトクリームの立体看板がなんとも可愛らしい。

自宅で、施設で、病院で、さまざまな看取りを経験した３人が、
今、あらためて理想の最期について語り合う。
島で理想の最期を迎えるため、福祉と地域と医療が繋がる。

鼎談 島で看取るということ

医療法人篤洲会
「屋久島篤洲会病院」院長
山本晃司さん

地域密着型特定施設入居者生活介護事業所
小規模多機能型居宅介護事業所
「ひまわりのお家」管理者
岡元さつきさん

訪問看護ステーション
「雲雀」管理者
岩切里美さん

山 一〇年くらい前は看取りといっても病院しか選択肢がなかったのが、ここ最近になって、在宅での看取り、施設での看取りが増えてきている。ただし在宅での看取りのバックアップ体制が十分できてるのかと言われると、実はまだまだなんですね。

幅が広がりつつはあるんだけども、まだまだ不十分という状況じゃないかなっていう風に思ってます。

私自身、死ぬときは、自宅で死にたいなと思って。その時に、どういうサポートがあったら、それができるかとなった時、その医療、看護、介護のサポート体制が十分でないと。

「家で死にたい。だけど友人もいない、家族もいない」そうするとヘルパーなり、訪問看護師が、常にいるわけじゃないので、その間の時間帯に死ぬわけです。横に誰かいるっていうのが、最低限必要なんじゃないかな。そういう状況下で、どういうふうにサポートしていけばいいのか。例えば、オムツ交換はどうするのって、体位変換はどうすんの、痰が絡んだらどうすんのって、そういう問題なんです。

岩 うちの担当で、本当にどなたもいらっしゃらなくて、ヘルパーと看護師だけで看取りしたという方がいました。ヘルパーさんが一日三回入って、元気なときは自分で起きてトイレに行ってたんですけど、それがだんだんできなくなって。すごく身なりがきちんとされている方で、なかなかオムツを履いてくれなくて。だんだん弱ってくると抵抗がなくなって、リハビリパンツを履いて、ベッドを入れたりとか色々やって。自分では全然動けない状態が続いて、「もうもうそろそろかな」っていうのがわかった時に、時間を見計らって訪問をしたら、ちょうど亡くなる寸前のころで、看護師とケアマネージャー、後は親戚に連絡をして。近所の方も何人かみえたりして、囲んで、息をひきとりました。

最後に一人だけで逝くのは、避けたいなと思っていたので、すごくいいタイミングでした。

山 理想としては、それが一番いい。それがもしできれば、本当に身寄りのない方で、友人もないし、親類もない、家族もないという方だけど、家で死にたいという希望も叶えられますよね。ターミナルの人に対して、最低何回訪問すれば、大丈夫なのかっていうとこなんで。

岩 島の現状だと三回が限度だと思います。夜っていうのが対応できないので。夕方入って朝一番という感じ。一〇時間くらいは開くんですけど。幸いなことに、動いたりはないので。オムツだけの問題なんですけど、エアベッドを置いたりでなんとか褥瘡（じょくそう）も作らずに対応ができている状態です。

山 夕方から次の日の朝までの間、夜中にもう一回というのが、必要じゃないかなと思うんですよ。その間は、やっぱり亡くなる可能性高くて。朝まで気がつかないで、朝気が付いたってなるよりは、同じ気がつくにしても、発見までの時間が、できるだけ短くて済む方が。

一人暮らしで、自分で寝たり起きたりできない人の前には、夜中の時間帯に、ホームヘルパーの派遣が必要。それがあると患者さんも安心なんです。そういう安心感があると、「じゃあ家で私は希望する」という気持ちになるじゃないかな、と。

岩 でもその時間帯に働く人はなかなか…。

山 前から二四時間のホームヘルプサービスを考えてたんですよ。一日三回とか四回行くっていうのは、距離が離れると非常に大変なんです。せいぜい車で一〇分から一五分。それくらいの距離でないと、おそらく無理だと思う。起点にヘルパーがいても、患者さんが出てきた時に初めて、そういう仕事をするんでは、普段の収入はどうなるんですか

というところなんですよ。

どういう風に解決するかというと、普段は病院なり施設で職員として勤務。そういう患者さんが出てきた時に、そっちの方にシフトするんです。病院施設の仕事は、残りの人間でそれをカバーする。そうすると収入が確保できる。だからそういう風に各集落に最低一人ずついればいい。だからそれをまずスタートして、そういう状況になってきた時に、ホームヘルプできるような、そういう形に持っていくという風にしていくのが、現実的なんです。

岡 そういうサービスができれば画期的だと思います。家で死ねますよね。

岩 ご家族の方に「こういう時に電話を下さい」と言っておけば、そんなに頻回にはならない。不安で最初の頃は頻回なんですけど、こういうときはこうなると理解してくだされば、そんなに頻回にはなりません。

山 家族にとっても初めてだし、何が起こるかわからない。訪問看護師の方が慣れているわけですから、そういう情報を伝えたら、家族も安心するわけですよね。

岩 息の仕方一つでも「今はこういう時期でこういう風な呼吸もしますよ。こうなったらちょっと良くないので、その時はお電話下さい」と状況をちゃんと伝えさえすれば、不安を和らげられるかもしれません。私たちも働く人を守らなければいけないので、みんなが疲れないように、そこを整えていかなければならないですよね。

岡 うちは施設での看取りなんですけども。看護師、ケアマネ、ご家族と話をして「こういう風に看取っていきます」という形で進めていってます。ご家族の方も笑顔で看取りができるというか、最後は「ありがとうね」って笑って迎えることが多いですね。長く施設にいらっしゃる方も看取ったときは悲しかったけど、本人がもう「何もしなくていい、何もいらない」っていうのを尊重して、みんなで見送ることを決めて、ご家族にも話して。本当に静かで。

山 家での看取りとほとんど同じで、違うのは、家族の方なのか、家族と施設の方なのかというくらい。普段住んでるところで看取られるのは同じ。家の場合だったら、ホームヘルパーが入らないとちょっとしんどいけど、施設の場合だったら、そこら辺は問題がないということですね。

岩 南部にもそういう施設がもう一軒あればいいかなと思います。自宅で私たちが関わっていく場合、ご家族の方がすごく疲れ果ててしまう場合もありますし。そういうときに一時預かって、ご家族が休めて、っていう施設も作りたいなって思います。

山 ショートステイもデイも在宅も三種類できるっていうのが、いいですね。うまく生かすと、家での看取りも可能だし、疲れる時はショートステイに入ってもらえるし、ちょっと元気ならデイの方に行ってもらって。

岩 同じ人たちと関わっていくというのが一番安心ですよね。

岡 「今日お家に帰りたくない」って言われれば、「ちょっと泊まっていけば？」ってこともできるので、そういうことも柔軟に対応してます。

岩 柔軟な対応をしてくださる所ってすごくありがたいですよね。看取りだけじゃなく在宅で看ていくために柔軟な対応をしてくださるところが増えていくと。

この前、病院で長く入院していた方で、もういよいよになったので家に連れて帰って一週間後亡くなったんですよね。

病院である程度までがんばって、最後は家でいう感じですごくよかった。

岡 「ひまわり」でもずっと入居されていて、最後はお家に帰って一週間後、娘さんの膝の上で亡くなった方がいらっしゃいました。

山 悪性疾患の人の場合、色々な、お家でやれる医療行為があってですね。酸素であったりとか、喀痰吸引であったりとか、腹水穿刺であるとか、点滴であったりとか、本来病院でないとできないと思われてることが、実は全部在宅で可能です。エコーもできるんですよ。病院とほぼ同じ内容の医療、看護が受けられるっていう保証があると、それだけでも随分また違うということですよね。
訪問看護に関しては、宮之浦、安房、尾之間とあって少なくとも住んでる看護師が、複数箇所にいて、直行直帰ができるとなると、有利なんです。屋久島の場合は、アクセスが大変だから。

岩 あと、いいなあと思ったのが、この前は若い方が、点滴をする日に電話が来て、「今日はしんどいから来なくていい」って。でもその日、実はパチンコに行ってて。

山 あったね。病院で寝てるんじゃなくて、お家で看取られる前にパチンコに行けたというの、これはすごいこと。この人にとっても、家族にとっても、すごいですよ。在宅やっててよかった。家族はパチンコに行けたんだ、良くなるんじゃないかと満足っていうか、本人もとにかくパチンコに一回行けたって。それはすごい大きなこと。だからそれだけでもすごい良かった。一、二週間後に亡くなったんですけど。

岩 奥さんは半年くらい持つと思ってたようだけど、私たちから見るとそうでもなくて、なんだか私たちが感じてるのと家族が感じてるものの差がかなりあるのかなって。希望を崩すのははばかられる。「一週間どうかなっていう感じですよ」って言っても、奥さんも「そんなまさかそんなことないですよね」って。それ以上は、だけど「まだ元気なうちに会いたい人とかやりたいこととかそういうことは、もう今のうちに準備をした方がいいですよ」って伝えたら、お葬式もすべて済んだあとに、感謝されました。

山 お家だったらご家族が、家事とか、仕事をしながら介護できる。パチンコとか、友達が遊びに来たりとか、普通の感覚でできる。残されたその時間をその人が一番好きな風に過ごせるってのは、やっぱりお家ならではなんですよね。

岡 希望は忘れず、やれることはどんどんやっていきたい。看取りもどんどん家族の要望を取り入れて、「ひまわりのお家」らしい看取りができればいいなと思って。

岩 私も在宅看取りというだけではなく、お一人様も多いので、みんなで集まって生活できる長屋みたいなそういうところも作りたいなと、夢だけは膨らみます。

岡 看取りするごとに職員の団結力が上がってきて、ちょっとした自信にもなってるんです。最初はみんなドギマギして余裕がなかったけど、最近では肝が座ってきて「今日大丈夫よ」「今日はないと思う」って、最近そういうことが話せるようになってきました。

岩 今日こうして話をしてみて、未来は明るいなという気がしてきました。

岡 みんなが希望の死を迎えられるように、私たちが頑張らないと。私も大好きな猫に囲まれて、家で死にたいです。

ALIVE屋久島通信

「屋久島福祉フェスタ開催」

2018年3月3日、屋久島で初めての福祉から地域を盛り上げるイベント「屋久島福祉フェスタ」を、屋久島町総合センターにて開催しました。事業所の事例発表やパネル展示、施設利用者さんの展示販売などを通じて、各事業所が日々取り組んでいることを島民の皆さんへ紹介しました。
ホールではオープニングに、島で介護職に携わるプロのミュージシャン岩切芳郎さんが、この日のために書き下ろした新曲「Counting-out song」を十人編成のバンドで発表。その他にも認知症予防リトミック体験や、役場職員による認知症予防の寸劇などもあり、賑わっていました。

人気アニメの主題歌を手掛けた経験を古里でいかそうと、介護士をしながらミュージシャンとしても活動中。福祉フェスタで、介護現場での悩みや前に進もうとする自らの思いを歌にして発表。

岩切　芳郎さん
特別養護老人ホーム「縄文の郷」介護職員

Counting out song

作詞 / 作曲：岩切芳郎

そこは解放され居心地がいいの？
ただ混沌としてザラザラしてんの？

あなたの笑った後には
また溜息混じり

言葉は繰り返しまた繰り返して
僕らは聞き流しまた聞き流して
あなたの怒った後には
不安そうな眼差し

掴んでも すり抜けてく
想いの中で
どうやって
繋がればいいんだろう

今日も 一つ数えて step by step
二つ数えて one step back
今その手を握り返せば
三つ笑って step by step
四つ傷つき two step back
今もがきながら 答えを探すよ

どこかキラキラしてた時空の先へ
今日は懐かしいあの頃の街へ
あなたの描いたイメージを
受け止められるかな

すがっても すり抜けてく
現実があって
少しでも支えられるなら

今日も 五つ数えて step by step
六つ数えて one step back
まだ行く先のない旅の途中
七つはしゃいで step by step
八つつまづき two step back
その捉え方で全てが変わるよ

Ah たった一人で生まれて来て
Ah たった一人で逝かないで
Ah 同じ時代の一瞬で今僕らは重なる
Ah 僕らも誰も同じ事
一人なんかじゃもう進めない
Ah 誰かに支えられながら
君も生きてる
だから

「オーガニックマーケット出店」

屋久島町役場（小瀬田）にて、屋久島で初のオーガニックマーケットが2019年12月7日に開催され、就労継続支援事業所「屋久の郷」が出店しました。つながる屋久島の未来のために「屋久の郷」も貢献したいと、「カフェギャラリー百水」で販売している「屋久の郷」のアーティストによるポストカードを100円で最高10枚まで当たるくじを企画しました。その他にも焼き菓子の販売、オリジナルのTシャツや屋久杉のアクセサリー、屋久島の植物で染めた草木染め手ぬぐい、刺繍ブローチなどを販売し、Tシャツの原画も一緒に展示をしました。

「認知症カフェを町と共同開催」

2019年度は屋久島町主催の認知症カフェにALIVE屋久島として計画段階から参画し、島内2ヶ所（一湊おいもわあもカフェ／ミニ・デイ野の花まつり）で開催しました。2ヶ所とも大盛況で、ALIVE 屋久島各事業所から認知症予防講座や、それぞれの活動内容の紹介を行い、地域の高齢者との交流の場となりました。行政・地域・各事業所間のつながりが更に強まり、また、地域の方々（特に若い方）に福祉について「わがこと」として理解を促す活動にも。特に認知症を理解し高齢者を地域の中で、どう支えていくかを考える機会となりました。

●移住希望者お問い合わせ

屋久島町では令和2年4月より、移住希望者への空家の紹介（空家バンク）、初期費用及び家賃の補助金支給等の施策を検討中です。詳細は下記の担当課へお問い合わせください。
屋久島町観光まちづくり課地域振興係　tel.0997-43-5900

●福祉事業所への人材募集に関するお問い合わせ

ALIVE 屋久島に参加する福祉事業所では、各事業所で人材を募集しております。各事業所の詳しい情報や募集要項などは、ALIVE 屋久島 HP 内にてご確認頂けます。下記 URL もしくは QR コードから ALIVE 屋久島 HP 内の各事業所へお問い合わせください。
ALIVE 屋久島 HP　http://aliveyakushima.net